

# 南摩地区

人口	男	1,393人	女	1,405人	計	2,798人	世帯数	1,010世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## 《事業概要【分野】と主な支出内容》

### ① 高齢者住環境美化支援事業 【福祉】

高齢者宅の住環境美化支援を低料金で行うことで、安心して暮らせる地域づくりに取り組む。

バリカン、チェーンソー、粉砕機、防護服、チェーンソー等講習、傷害保険、倉庫賃貸料

### ② なんま野菜の給食プロジェクト事業 【農業】

学校給食の地産地消化、自産自消化を通して子供たちの健やかな心身を育む。

播種機、種苗、マルチ、軍手、デジタルカメラ、技術指導謝礼、農地賃貸料、倉庫賃貸料

### ③ 「なんまん」商標取得事業 【住民交流】

地域のキャラクター「なんまん」の商標権を取得することで、安心して地域の人たちが活用できるようにする。

バッチ、出願手数料、商標登録料、郵送料

### ④ なんまんお祭りプロジェクト事業 【住民交流】

地域の事業、イベントを通して、これからも住み続けたい、戻ってきたい南摩を実現する。

なんまん焼き機（人形・鯛焼き機）、イルミネーション、音響機器、タイル壁画部材

## 《収支決算》

### 【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	3,502,000	2,317,156	2,929,612	2,716,145	11,464,913
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	336,575	231,055	460,128	249,376	1,277,134
計	—	3,838,575	2,548,211	3,389,740	2,965,521	12,742,047

### 【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	2,139,941	1,687,737	1,165,247	835,330	5,828,255
事業②	—	656,735	269,420	388,044	86,217	1,400,416
事業③	—	139,968	4,733	141,404	0	286,105
事業④	—	901,931	586,321	1,695,045	2,043,974	5,227,271
計	—	3,838,575	2,548,211	3,389,740	2,965,521	12,742,047

## 《事業への取り組みを振り返って》

### 高齢者住環境美化支援事業、愛称「なんまん草刈隊いいべえ」事業報告



#### 【事業の成り立ち】

ある高齢者のお宅で、「屋敷周りがひどいでしょう。『きれい』にしたいと思っても、この年、この体ではもう無理ですよ。朝日が入って普通のくらしが出来ればそれだけでいいんだが。」愚痴とも取れる一言がありました。

家の周りの草や、樹木をきれいにしたくとも、年齢や身体的、あるいは、経済的理由により、何ともならないで、困っている高齢者を、チームを作って支援するため、草刈隊員30名で平成30年7月に立ち上げました。

#### 【事業の範囲等】

- ・対象者は高齢者世帯又は障がい者宅
- ・草刈の範囲は住宅敷地周辺
- ・料金は低料金



地域の夢事業拠点施設前にある看板

#### 【活動を振り返って】

草木が繁茂する時期に依頼が集中して作業が多忙のときがありましたが、「ありがとう」「助かりました」の言葉に励まされ、ケガもなく作業をしてきました。



作業風景



なんまんヘルメット



ちょっと一休み

どんな小さな事でも、人の役に立った時の達成感はお金では味わえません。正直こんなに喜んでもらえるとは思っていませんでした。この事業を実施して良かったと思いました。

#### 【ふたつの気づき】

- ① 「地域包括ケアシステム」の地域支援になる。
- ② 他を幸せにすることで、なんまん草刈隊員も幸せな気分になれる。

#### 【住みよい南摩地区をめざして】

隊員の確保や、運営面などの課題はありますが、地域や家庭で困りごとがあれば、みんなで何とかしましょう。これが草刈隊チームを立ち上げるきっかけでした。

先人たちが築き上げた「南摩地区」を、お互い助け合いながらさらに住みよい地区になるよう努めていきます。



粉碎機導入

## なんま野菜の給食プロジェクト、なんま夢やさいチームの事業報告



### 【チームの目的】

学校給食の地産地消化、自産自消化を通して、地域の子供たちの将来の選択肢を増やし、自由に生きるための後押しをする。

### 【目的達成のための手段】

地域の有休農地を活用し、無農薬で野菜を育てて学校給食へ供給する。

#### 《コロナ禍以前》

農作業に地域の人々に広く加わってもらうことで目的達成への効果を高めていくことを想定し、農作業への参加者を SNS を通して募集。毎回 10 人前後の参加者が集まり、作業を行った。

#### 《コロナ禍以後》

参加者を広く募集することが難しくなったため、対象を地元の小中学生に限定した。事業の目的に沿った取り組みへと内容を変更すべく、南摩中学校との共同事業「里山百手プロジェクト」を始めた。

### 【活動の振り返り】

コロナ禍という事態を受け、当初の想定された取り組みが難しくなっていました。そこで、目的に沿った内容で事業に取り組んでいくにはどうすべきか検討し、2020 年からは南摩中学校との共同事業「里山百手プロジェクト」を始めました。このプロジェクトでは、児童生徒と一緒に農作業をし、収穫物を給食で食べてもらった他、給食に使える B 品野菜を加工して加工品や、加工品のパッケージのデザインをみんなでつくったり、その販売方法をマーケティング理論に基づいて考察したり、と、普段の学校生活ではなかなか触れられない分野の学びの機会を、それまでの活動があったからこそできる形で提供することができたと考えています。この取り組みは下野新聞に複数回掲載された他、来年度開催の関東甲信越地区中学校長会 第 74 回研究協議会埼玉大会にて、上都賀地区の代表事例として紹介される予定であり、地域の PR にもつながったと思います。



小学生と共同で行った  
人参の収穫



中学生と共同で行った B 品野菜  
(人参)を使ったドレッシングづくり



中学生と共同で行った  
玉ねぎの皮を使った草木染

## 「なんまん」商標取得事業の事業報告



### 【事業の目的・内容】

南摩中学校発祥であり地域で愛されてきたキャラクター「なんまん」を、第三者の不当な扱いから守り、地域を愛する人たちが安心して活用できるようにするため商標権取得を目指し、令和2年6月5日に商標登録がされました。

### 【事業を振り返って】

商標登録がなされて以降、地域の各組織、個人、小中学校において、「なんまん」の活用が加速化され、南摩地域のシンボルとして「なんまん」が広がりつつあります。

また、「なんまん」の活用、普及を促進するための組織として地元の有志が「なんまん本舗」を立ち上げ活動を開始しました。

今後は「なんまん」の普及に合わせ、地域の活動に「なんまん」を繋げることで、地域の活動を見えやすく、また親しみやすくなるようPRを行い、地域住民が地域の活動に自分たちも参加しようと思ってもらえるよう取り組んでいきます。



商標登録証

ありがとう



いいね!



南摩中学校同窓会で作成販売しているLINEスタンプの一部



南摩中学生徒がイラストを考えた定期

## なんまんお祭りプロジェクト事業の事業報告



### 【事業の目的】

南摩地域の各種行事は、各運営団体において担い手不足が課題となっている。そこで地域の事業、イベントを通して地域への郷土愛を育み、これからも住み続けたい、戻ってきたい南摩を実現する。

### 【事業の内容】

「なんまん」を活用したお祭り機材の整備・活用や、なんまんグッズの作成・配布を通して、地域のシンボルキャラクターである「なんまん」や地域への親しみの創出を実現してきました。

しかしながらコロナ禍以降、各種お祭りなどの大勢集まるイベントが中止となりました。そのため、南摩中学校生徒達が考えたなんまんタイル壁画やなんまんイルミネーションの設置、南摩小学校と上南摩小学校児童達が共同でデザインしたランチマットの作成・配布。また、南摩フェスティバル代替え事業で



南摩フェスティバル



なんまんタイル壁画

ある、なんまんフォトコンテストなど、コロナ禍でも可能な事業を行うことで、「なんまん」を通じた郷土愛の醸成に努めてきました。

【事業を振り返って】

コロナ禍において多くの事業が中止となり、地域の将来を考えている人たちに、このままでは地域への思いや連帯感が廃れてしまうと、危機意識が芽生えていたと感じました。

そのような中、多くの方が何かできることを探そうとすることで、南摩ならではの地域の連帯感や、南摩を守っていきたいという意識が平時より強くなったのではないかと思います。

【最後に】

南摩地域では、地域の夢実現事業で活動している各組織が統合することで、南摩地域の地域活動を担うNPO組織となる構想が描かれています。

今年度においては、NPO構想で描かれていた、各組織が連携して地域の課題に取り組む組織として、なんまスマイル会議が発足し活動を開始したところです。

今後はこの会議を中心に、地域の各組織と連携しながら地域の課題に取り組んでいきます。



南摩小、上南摩小児童と一緒に考えたランチマット挿絵



なんまんフォトコンテスト  
最優秀作品